

はくととはと

Shinkomonji Hospital

新小文字病院

2018.10

Vol.47

ご自由に
お持ち帰り下さい

平成30年 新小文字病院医療連携会
新プロジェクト

患者総合支援を強化
当院の入・退院支援と退院調整を推進

肥満(代謝)外来を開設
肥満・代謝治療チームが発足

Stroke Hotlineを開設
最速・最良の脳梗塞診療

かもめ医院
かかりつけ医紹介②

施設参加型研修会実施報告
「異常に気づける! 観察ポイント~意識・呼吸・循環~」

基本方針

高度医療 学問的に、技術的に高い水準の医療を提供します。そのために必要な施設・設備の整備拡充に努めます。	総合医療 患者様と医療情報を共有し、急性期治療から早期リハビリ、在宅医療まで一貫した、患者様のニーズに沿った安全で安心できるチーム医療を提供します。	地域医療 地域の医療・福祉施設と密接な連携を図り、いつでも誰でも安心して利用できる、救急医療に重点を置いた地域医療の中核病院を目指します。
--	--	---

患者様の権利と責務

- 1. 平等な治療を受ける権利があります。**
患者様は、その社会的経済的地位、国籍、人種、宗教、年齢、病気の種類によって差別されずに、平等な治療を受ける権利を持っています。
- 2. 治療を自己決定できる権利があります。**
患者様は、医師による明確でわかりやすい言葉で十分な説明を受けた後で、治療を受ける権利、あるいは治療を受けることを拒む権利があります。
- 3. 情報を知る権利と情報を提供する責務があります。**
患者様は、医師による診断・治療、または変わり得る治療方法・予後、今後予測される問題に関して知る権利を持っています。患者様は、自身の症状や健康に関する正確な情報を提供し、治療に積極的に参加する責務があります。
- 4. セカンドオピニオンを受ける権利とプライバシーが守られる権利があります。**
患者様は、自分の医療内容に対して、医師と共同して選択する権利、他の医師からの意見・相談を得る権利、いかなる場合であっても人格的に扱われ、患者様自身の診療に関する全てのプライバシーに関して、万全の配慮を受ける権利を持っています。
- 5. 相談する権利があります。**
患者様は、十分な情報を得、利用可能な財政的支援について相談する権利を持っています。
- 6. 良質な医療を速やかに受ける権利があります。**
患者様は、効果的医療行為を速やかに行われることを要求する権利、継続的に支持、検討された質の高い医療を受ける権利を持っています。
- 7. 病院秩序を守る責務があります。**
患者様は、全ての患者様が安全で良質な医療を受けられるように配慮して頂くとともに、職員が適切な医療を行うことを妨げないよう協力する責務があります。また、医療費を適正に支払う責務があります。

トピックス 「第4回施設参加型研修会 異常に気づける! 観察ポイント~意識・呼吸・循環~」

今回は、昨年度と同じ内容の中級編ということで企画させていただきました。昨年度の講義内容の振り返りと共に、聴診の仕方、意識レベルの見方、動脈触知の方法など、簡単にできる実技内容も講義に取り入れ実施しました。参加者の7~8割は前回の講義を受講されていない方たちでしたので、前回の講義内容の振り返りに少し時間をかけ、実技時間を短縮して実施しました。途中、聴診の音がパソコンから流れないトラブルもあり、事前の準備が足りなかったと反省しました。参加者の人たちの真剣な眼差しや、メモを取る動作などから「勉強したい」という気持ちが強く伝わり、私も講義を楽しく真剣に取り組むことができました。

講義後の質問も多く30分近く質問や討議ができ、私もいい経験になりました。毎回、施設の職員の方から「異常に気づく」事の難しさや、大変さを少しでも勉強して現場で活かしたいという気持ちが伝わってきますので、次回も講義のチャンスがあれば、

現場の職員の方のニーズに答えられる講義内容にしていきたいと思えます。講義に参加していただいた方々、準備をして下さった職員に感謝を申し上げます。有り難うございました。

集中ケア認定看護師・ICU師長
新井 祐介



新小文字病院 平成30年度施設参加型研修会開催予定のご案内

実施予定日	研修テーマ	講師	時間
10月18日(木)	利用者と自分を守る! 感染対策!!	感染管理認定看護師	18時~19時30分
11月15日(木)	安全管理~「転倒・転落」について~	医療安全感染管理室セーフティマネージャー	18時~19時
12月20日(木)	肺炎を予防する口腔ケア~その人らしい口腔ケア~ 初級編	※都合により中止します	

(毎月第3木曜日:18時~19時 実践含む研修 18時~19時30分)※日時変更になる場合もあります。本年度も様々なテーマを用意しておりますので、ぜひご参加ください。

診療科目ご案内

内科・消化器内科・循環器内科
内分泌・糖尿病内科・呼吸器内科
外科・呼吸器外科・整形外科
リウマチ科・形成外科・皮膚科
泌尿器科・放射線科・脳神経外科
脊髄脊椎外科・救急科・病理診断科
リハビリテーション科・麻酔科



Access map

新小文字病院

北九州市高速
西鉄バス 新小文字病院前バス停で下車すぐ

駐車場のご案内

ご来院の際は400台
収容可能な駐車場をご利用ください。

- 外来受診・お見舞い
4時間まで100円・以降1時間毎に200円
- 検査・手術付添等に関する長時間滞在は
8時間まで100円・以降1時間毎に200円

新小文字病院を 身近に感じる広報誌

Vol.47

2018年10月15日発行
企画：社会医療法人財団池友会
新小文字病院 広報委員会
〒800-0057
北九州市門司区大里新町 2-5
TEL：093-391-1001
FAX：093-391-7001
E-mail：info@shinkomonji-hp.jp
http://www.shinkomonji-hp.jp

新小文字病院 検索

Design
NPO 法人列島会
創造館クリエイティブハウス 印刷事業部



肥満(代謝)
外来

平成30年の医療連携会が7月10日(火)午後7時からステーションホテル小倉で開かれ、地域医療関係者、介護施設関係者、当院関係者を加えた360名が参加しました。

新プロジェクト

Stroke
Hotline

本会は、今回で3回目となり新小文字病院と地域の医療・施設機関との相互理解と連携を推進するために、地域医療を担われている先生方や施設の関係者との交流を図る目的の事業です。

立てるのか、どのように地域との連携を築いていこうか、一生涯懸命考えているところです。本日の3演題もこの地域の中でできっと役に立ち、また地域の連携でこそ活きるプロジェクトの3演題を紹介させていただきます。中でも近年注目されている患者の入院から退院、更には、地域での生活に至るまでの一連の総合的な支援が課題となっています。本日の発表の3つのプロジェクトも

まだまだ形は完成されていませんが、皆様方の批判を頂きながら、これを地域の中でも意義のある活動に結び付けていきたいと思っております。本日の連携会は、当院職員みんなで作らあげた手作りの会でございます。どうぞよろしくお願ひします」と挨拶をしました。

第1演題目は、医療連携室の宗室長と富田師長より「患者総合支援の取り組みについて」の発表がありました。地域医療構想に基づいて、入院前もしくは入院してから患者様の退院後を見据えて手厚い支援を行えるよう昨年準備をしてきました。そして今年の3月から患者総合支援センター

として新たに再出発をして地域のために少しでも、当院が出来る事はないかと業務を見直し、今回新たに整えた患者総合支援の体制と機能、スタッフ紹介を交えて、具体的な取り組みについての説明がありました。

第2演題目は、河原内分秘・糖尿病内科部長と石田外科部長による「肥満(代謝)外来」の発表がありました。

その後、別室で行われた懇親会では門司区医師会吉田会長より「小文字病院時代より、地域医療のみならず、急性期医療にも多大な貢献をして頂き、市民の皆様が安心して暮らせています。かかりつけの患者様をお願ひする場面にも、スムーズに受け入れて頂き、とても助かっています。今後もこれまで以上に連携を深め、地域の皆様に安心・安全な医療を提供して頂きたい。」と来賓祝辞を述べられた後、北九州市小倉医師会宇野会長より「北九州市内も新小文字病院を含めたくさんの病院ができ、患者様が急変した際、送り先に困る事がほとんどなくなっています。」とご挨拶

の後、乾杯の発声により第2部の懇親会がスタートしました。続いて当院の各科診療部長による診療科紹介の後、ご参加頂いた連携機関の方々との和やかな雰囲気の中で活発な意見交換が行われました。

(医療連携室)



患者総合支援を強化



当院の入・退院支援と退院調整を推進
看護師と医療ソーシャルワーカーが連携

医療連携室

2030年には、人口の3人に1人が65歳以上の「超高齢化社会」になると言われています。北九州市門司区の高齢化率は政令指定都市のなかで最も高く、この地域において高齢者医療は大きな課題です。

地域で求められる
医療と介護の連携

当院では3年程前から地域の介護施設を中心に、この地域で求められる医療や、医療と介護の連携をどう考えるか等について意見交換を実施してきました。そのなかで、病院の判断する「退院可能」は生活の場での「安定した生活」とは差があること、介護施設は心配があるなかでの受け入れをしていること、が分かりました。病院は、「治す医療」に集中しがちであり、医療と介護のニーズを併せ持つ高齢者が増加するなかで、患者を「生活者」として捉え

る視点が不足していました。政策においても、在宅医療が推進されています。住み慣れた地域で、疾病を抱えながらも、その人らしく地域での生活を続けるために、医療機関は患者の生活を捉え、援助していくことが重要です。

医療機関・療養施設・
在宅サービスとの
地域連携を強化

急性期病院の主たる役割は「集中的な医療の提供」です。いかに短い期間で集中的に安全・安心な医療を提供できるかが問われるなかで、退院後の生活を見据えた支援介入を行うには、患者把握を十分に行い、早期から退院後の生活に必要な患者能力や在宅サービスを見極めること、家族支援力や介護施設側の受入基準を明確にして、目標を定め道筋を立てることが必要になります。そして、スムーズかつ効果的な支援を行う為に、多職種が目標を共有し協働して、院内全体で患者支援を行うことが重要です。また、急性期医療を終え、患者の状態や療養環境にに応じて適

具体的な取り組み

切な医療機関・療養場所・在宅サービスの確保ができるよう地域連携を図ります。

今回、このような患者支援を実現させるため病院全体で支援の在り方を考え、医療連携室は体制の見直しを行い、大きく4つの部門をつくりました。

医療
連携室

① 外来支援
外来通院患者の支援を行う

② 入院支援
予約入院決定時に介入する

③ 退院支援
入院患者の情報整理を行い、問題点を抽出し院内発信する

④ 退院調整
治療計画に沿った計画的な支援を院内外で多職種と展開する

看護師が
問題点や課題を
院内・外で共有

看護師と医療
ソーシャルワーカー
が連携

「外来支援」「入院支援」「退院

支援」は、早期患者把握を目的に、患者支援に従事する担当の看護師が、患者・家族と面談を行います。病歴や入院前の生活や認知面・家族の状況・介護サービス利用状況・経済面など多方面から患者を把握し、治療方針や病状と合わせて、問題点や課題を患者・家族を含めた院内・外と共有します。

「退院調整」は、医療ソーシャルワーカーと看護師で構成され、医療ソーシャルワーカーは、適切な社会資源と退院先の確保が出来るよう調整します。

看護師は、介護施設を含む在宅に医療・看護の視点を引き継ぐことを目的に、ケアマネージャー・訪問看護師等との情報共有・在宅サービス変更に伴う介入や、紹介元への退院調整を担当します。

患者総合支援は、「患者がその人らしく地域での生活が続けられるよう退院後の生活を見据えた支援を行う」ことを、早期患者把握・課題抽出、計画的支援・切れ目のない院内・外連携に重点を置いた新小文字病院全体の取り組みです。地域の皆様に理解して頂けるよう努力していきたいと思えます。



内分泌・糖尿病内科部長
河原 哲也

産業医科大学 平成11年卒
医学博士
日本内科学会認定医・指導医
日本糖尿病学会専門医・指導医
日本内分泌学会専門医・指導医

外科部長
石田 慎悟

佐賀大学 平成19年卒
日本外科学会外科専門医

肥満(代謝)外来を開設

肥満は病気？

肥満・代謝治療チームが発足

今回は新小文字病院で減量・代謝疾患治療チームが発足したと、このことでチームの柱となる内科、外科のそれぞれの医師からチームでどのような事を行っているのかを伺ってみました。それではチームが発足するきっかけになったお話からして頂きましょう。

石田 「このチームでの基本的な考え方の柱は病的肥満を治療し、そこに合併する糖尿病などの病気の治療や近未来で起きる重篤な心臓疾患や脳卒中などを予防するということです。美容の意味は含まれてなく、脂肪吸引などを行う美容外科とは根本から異なるものです。」

河原 「平成28年(2016年)の厚労省の発表では、BMIが25以上の肥満の方の割合が男性では年々増加し約30%、女性ではほぼ横ばいであるものの20%います。更にBMI35以上の高度(病的)肥満の方は男女平均して0.3%と僅かですが、北九州市には約2700人の高度肥満の方がいる計算になります。」

我々糖尿病専門医の世界では「糖尿病は一度発症すると治らない」と言われてきましたが、肥満手術をすることで「糖尿病が治った」との発表を見た時には驚きました。従って、石田医師に「当院外科でも肥満手術をできるようになります。一緒に肥満・代謝治療チームを作りませんか」と相談を持ちかけられた時にはとても魅力的に感じました。」

治療対象はどのような患者でまた、どうしたらよいでしょうか？

石田 「対象は細かな条件が他にもあるのですが、まずはBMI(肥満指数) 体重(kg) ÷

身長(m)が35以上を目安にして頂ければと思います。」

河原 「治療は私や石田医師の外来に直接来て頂いても構いませんし、かかりつけがある場合はその先生にこれまでの治療内容のお手紙を書いて頂くのがスムーズです。」

河原 「治療はまず全身状態がどのような状態にあるかを検査することから始まります。検査が終了したらすぐに手術となるわけではなく、まずは内科と栄養科、リハビリ科の協力により食事療法、運動療法による減量を試みます。それが困難なようであれば薬剤科の協力で体重減少の内服薬を使用します。現在は数種類の薬剤があり、それぞれの患者様にあった内服薬を処方します。」

石田 「半年間の内科治療でもうまく減量できない場合は手術治療が対象になることがあります。途中術前減量など詳しい話を患者や御家族に説明させてもらい、当チーム内で個別の問題点などを話し合ってから手術になります。」

どのような手術が行われるのでしょうか。

石田 「肥満減量手術には数種類のの方法があるのですが、現在日本で保険適応とされている術式は一つで腹腔鏡下袖状胃切除術になります。全身麻酔後にお腹に小さな穴を数ヶ所あけて胃を切り取って、バナナのように細い管にしてしまう手術です。」

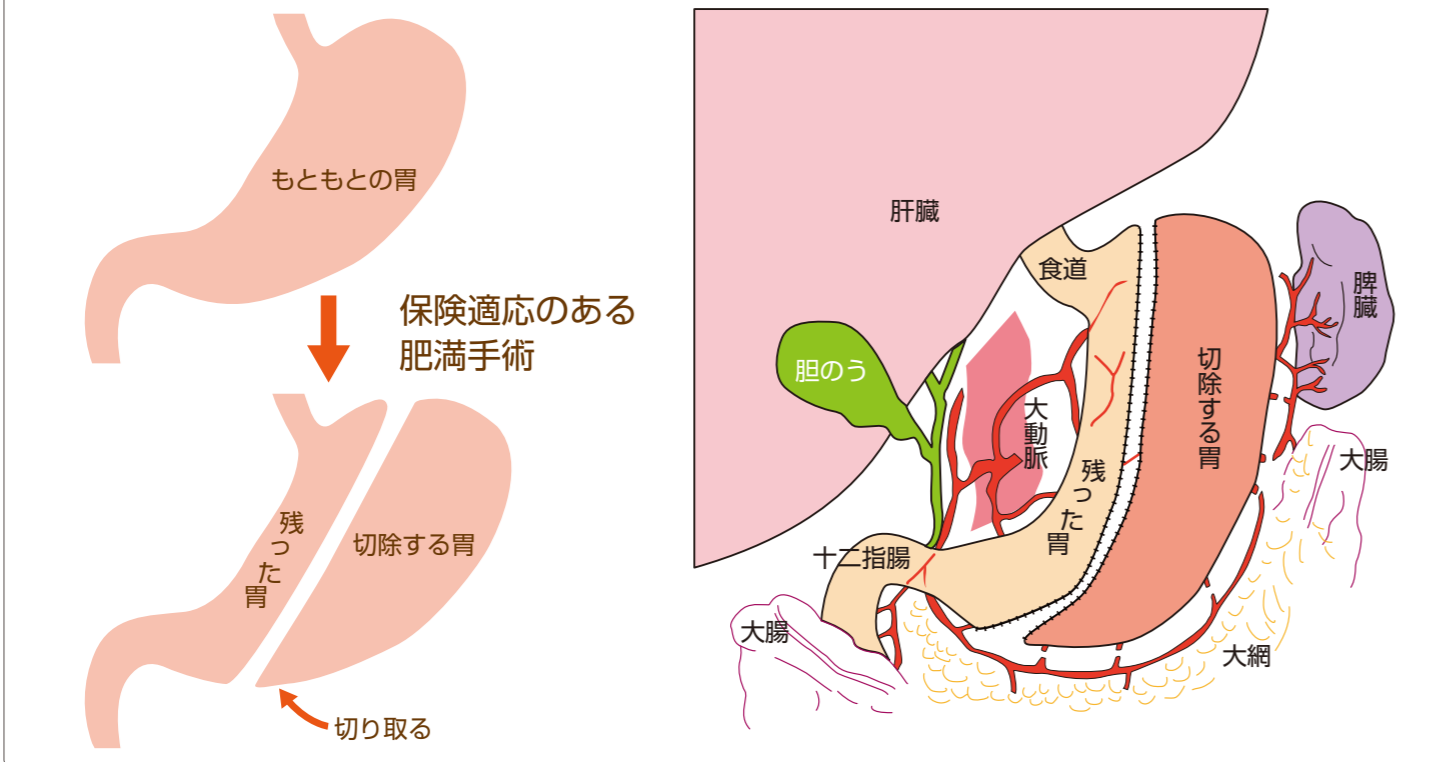
治療の上で重要なことはなんでしょうか？
また今後の展望などあれば教えてください。

河原 「諦めずにまずは2ヶ月間程度、2週間〜1ヶ月に一回の外来受診を継続することで結果を出す」と謳っています。当院でもこれまで受診された患者さんの全員が2ヶ月以内に体重減少を認めています。当院には肥満、糖尿病に精通した看護師、管理栄養士、リハビリの理学療法士、薬剤師がいま

す。医師に話せないことも彼らに相談することで改善点が見えてくると思います。また今年度から当院が糖尿病教育認定施設として認められました。今後、各部署から徐々に多くの糖尿病療養指導士が誕生することが予想され、更に質の高いチーム医療が患者様に提供されると思います。」

石田 「病院側の観点からは病気や治療に対する理解が大事になってくると思います。世界では毎年数十万件行われている手術ですが、日本では数百件にすぎません。日本人は高度肥満患者が他国より少なく、「肥満は気持ちが悪く、痩せられない人側の問題だ」や「肥満は病気ではない」などの考え方を持つ人も多くいるため、これまで治療に積極的ではなかったことも普及を難しくしていると思います。まだ治療可能な施設も少ないです。当院でも開始したばかりであり、各種認定を得て行かなければなりませんので大事に丁寧に行きたいです。」

腹腔鏡下袖状胃切除術



最速・最良の脳梗塞診療 Stroke Hotline

脳神経外科部長 藤村陽都

ある日突然、
日常を奪う脳卒中

Stroke(ストローク)とは、「発作」という意味の英語で、医療界ではStroke=脳卒中として使われています。

脳卒中は、脳出血と脳梗塞を含む疾患名です。脳出血の治療は、出血が少なければ血圧管理、出血が多ければ手術ですが、いずれの治療でも症状の急激な回復は稀で、長期のリハビリを要します。

一方で脳梗塞の治療は、症状が出現してから治療を始めるまでの時間によって、治療方針が大きく異なります。

脳梗塞治療の
進歩と限界

2000年初頭までは、脳梗塞も脳出血と同様で、治療によ

る劇的な症状回復は難しく、回復のためには長期のリハビリを要しました。

2005年から、血栓を溶かして、脳血流を再開する治療(血栓溶解療法)が、2010年からは血栓をカテーテルで取り除く治療(血栓回収療法)が可能となりました。

こうした治療により、神経症状の回復が期待できるようになりましたが、いずれの治療も発症から治療開始までの制限時間があります。血栓溶解療法は発症から4時間30分以内を開始、血栓回収療法は8時間以内に完了しなければいけません。この制限時間は徐々に延長されていく可能性

があります。大事なことは、脳細胞が壊死する前に脳血流を再開することです。症状が出現した後、可能な限り早期に治療を完了する必要があります。

脳卒中が疑われる患者を脳外科医が最初に診察することの意味

多くの救急病院では、救急担当医が診察、検査を行い、確定診断の後に専門科に引き継ぐことが多く、脳卒中においても同様です。

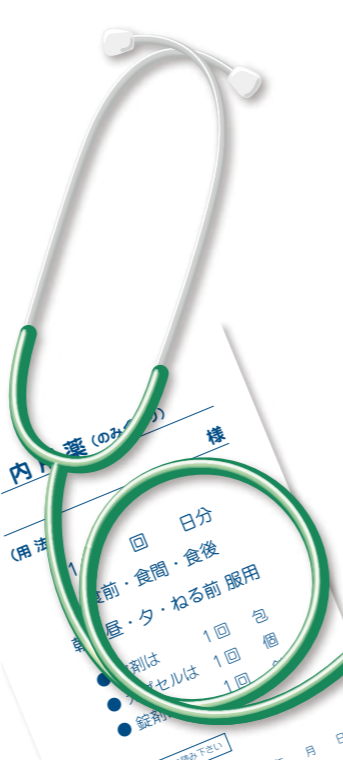
しかし、発症から間もない脳梗塞は画像所見が伴わないことが多く、診断には十分な知識と経験を要します。診断が確定してから脳卒中治療医に治療を依頼するのでは、引き継ぎの時間がかかり、その間に無数の脳細胞が壊死してしまうこととなります。

Stroke Hotlineは脳卒中治療医が、脳卒中が疑われる患者さんの初診に関わり、診断・治療開始(治療完了)までの時間を可能な限り短縮することを目的に始めました。

救急隊が要請を受けた傷病者に脳卒中が疑われれば、隊員の判断で当院の脳神経外科医師に直接連絡が入ります。搬送の時間を短縮する目的で、

地域の皆様にとって「頼れる街の診療所」

かもめ医院



かかりつけ医紹介 ②

クリニックの
特徴と特色、
病院の概要

かもめ医院は平成26年5月に小倉北区赤坂にて開院しております。

初めはほとんどの患者さんが訪問診療でしたが、現在は外来患者さんも増えて、約3分の1が外来診療となっています。外来に関しては、上部消化管内視鏡や腹部超音波検査なども行っております。

一般的なクリニックと違うところは訪問診療が多いことです。

訪問診療は24時間態勢にて行っております。

新小文字病院との
連携について

かもめ医院では訪問診療の患者さんを多数抱えております。

その人たちの中にはかなり状態の悪い方もいらっしゃいます。

急変したときもすぐに対応していただけることが在宅医療を行っていく上でとても助かっております。

今後の目標として
仕事をすることで
心掛けること

かもめ医院を立ち上げる前

地域の皆様への
メッセージ

からですが、患者さんの顔がほころぶような信頼関係や声かけなどを行うようにしています。当然、治療は普通に行っていますが、それ以上に患者さんに来てよかったと思ってもらえることをスタッフ一同心掛けていきたい。それが一般のクリニックの役割のひとつであると考えています。

かもめ医院の知名度はまだまだ地域に浸透しているとは思いますが、当院もひとつのかかりつけ医として日々精進しているところです。

お近くの方で御相談などございましたら、お気軽にきていただければ幸いです。



脳卒中かも、
と思ったら、
すぐに救急要請

Stroke Hotlineは全ての搬入依頼を受け入れます。緊急治療の対象でないことや、脳卒中ではないこともあります。しかし、脳梗塞であった場合の治療開始、治療完了までの時間は大幅に短縮しました。重症の脳梗塞で全く手足が動かない状況から、歩いて自宅に退院することが出来た方もいらっしゃいます。この取り組みを24時間対応にしたらはまだ間もないですが、脳梗塞において、最速の治療が最良の治療であることを実感しています。

当院では、救急隊との連携により迅速に血栓溶解療法や血栓回収療法を開始する体制を整えました。一方で、こうした最速・最良の脳梗塞治療を受けることが出来た方は、脳梗塞患者さん全体のごく一部です。

ほとんどの患者さんが、治療可能な時間帯に受診できていないことがその理由です。

最速・最良の治療を受けるためには、患者さんやそのご家族

族が脳卒中を疑った場合、直ちに救急車を呼ぶ、病院に受診するという判断を迅速に行う必要があります。

脳卒中には、FAST(ファスト)を確認しよう!

<p>F Face 顔</p> <p>うまく笑顔が作れますか?</p>	<p>A Arm 腕</p> <p>腕を上げたままキープできますか?</p>	<p>S Speech 言葉</p> <p>短い文がいつも通りしゃべれますか?</p>	<p>T Time すぐ受診</p> <p>症状に気づいたら、すぐに119番を!</p>
--	---	--	---

かもめ医院

院長 田尻 鉄郎

経歴 1993年 杏林大学医学部卒業
杏林大学医学部付属病院救急医学教室
久留米大学病院外科学教室
長崎県宇久町国保診療所出向、ハワイ大学外科学教室研究員
熊本セントラル病院 外科医長
久留米大学病院高度救命センター 外科医長
大分県済生会日田病院 外科部長を歴任。
以上を経て、かもめ医院開業

住所 〒802-0032 福岡県北九州市小倉北区赤坂1-8-7

TEL 093-521-0500

診療科 内科・外科・在宅医療

診察・受付時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:00	○	○	○	○	○	—
午後 13:00~17:00	○	○	○	○	○	—

※ 火曜日のみ12:00~14:00休診
土曜日、日曜日、祝祭日/休診

